



- 1... ロイヤルゼリーの採乳時のスタッフの仕事風景
- 2... ゴム園の中に置かれた巣箱。
- 3... 巣箱の確認をするマヌーさん



養蜂を支えるチーム

the team to support beekeeping 1

養蜂を支える人々

養蜂場スタッフをご紹介します！

今年の雨季前半は、雨が少なく、タイ全土で水不足が深刻化し、農業にも影響が出ていました。しかし、7月下旬から8月にかけて、北部タイを中心にまとまった雨が降るようになり、現地の養蜂場でも順調にロイヤルゼリーの採乳が続けられています。また、巣箱の方も900箱近くまで分蜂が進んでいるそうです。



ゴム園の中に置かれた巣箱。下枝がないので、ミツバチには飛びやすい。



8

仕事一筋のマヌーさん、巣箱の点検に余念がない。



マヌーさん
夫妻

4

タイの労働事情とゆうあい養蜂場

最近、タイ国内でも、日本と同じように若い人達が重労働の仕事を避ける風潮にあり、実際、チェンマイ市内の建設現場やレストランで働いているのは、ミャンマー人などの外国人労働者が大勢を占めています。養蜂の現場でも同じような問題が起こっていますが、いつも養蜂場の見学などでお世話になるワーンヌア郡のマヌーさんのグループは、メンバーの平均年齢も若く、役割を分担しながらうまく回っているチームの1つです。

頼りになるマヌーさん

奥さんであるエーンさんは16歳から働いています。彼女はメーホーンソーン県パーイ郡出身で、以前は違うところで養蜂の仕事をしていました。しかし、その業者が張さんに巣箱を売却した際、働いていた人も一緒に再雇用されたそうです。そして二人は同じ仕事場で出会い、実にそれ以降20年以上にもわたり、共にミツバチに関わってきたことになりま

す。数年後に2人は一緒になり、息子さんが1人生まれましたが、今ではもう19歳になっています。仕事の関係もあり、息子さんはずっと幼い頃から親元の祖父母に預けられています。現在は専門学校で自動車整備の勉強

強をしています。学校が長期休みに入ると、息子さんも養蜂の手伝いに来るそうです。生き物を扱う仕事なので、休日はソクラーン(タイのお正月)に数日間、それと大晦日と元旦のみで、1週間以上、巣箱を放置しておくことはできません。作業の合間に、周辺で巣箱を置ける場所を探したり、忙しい時は助っ人を探しに行くのもマヌーさんの役割です。ちなみに巣箱を置く場所は、適当な木陰があることは当然ですが、必ずしも龍眼(ロンガン)などの果樹園でなくてもかまいません。近隣の蜜源へ飛んでいきやすいようにマンゴー園、ゴム園など、平坦で見通しの良い場所も適しているそうです。



5

トイさん 25歳
ティップさん 27歳



6

ナッタボンくん 15歳
(ニックネームは三)



7

車庫の奥に山積みになった空の巣箱



9

全員と一緒に暮らす借家



10

ネーンさん 21歳
ボーイさん 30歳



11

ピックアップ車に積まれた巣箱や養蜂道具



8

借家の裏に置かれた巣箱
女王ハチを生育

大家族のように、共に生活し共に働く

マヌーさんに、「趣味は何ですか?」なんていう愚問をしたら、「時間が空いたら仕事をしている。」という返事でした。本当に仕事が好きで、養蜂一筋のようです。「ハチに刺されることはないですか?」の問いには、「毎日のように刺されているので、もう慣れっこになった。」と笑いながら答えてくれました。マヌーさんとエーンさんご夫妻、1日1さじの生ロイヤルゼリーを食べているので、もう何年も大病にかかることなく元氣

に暮しているとのことでした。この時期は、ワーンヌア郡を拠点に養蜂を営んでいるため、近くに1軒屋を借りています。残りのメンバー2組も結婚しており、そこに15歳のナッタボンくんが加わって、全員が一つの大きな家族として共同生活をしています。いろいろな人達の関わりや支えがあって、こうしてロイヤルゼリーを日本へお届けすることができています。

- 8... 借家の裏では、女王ハチを育てている。
- 9... 全員一緒に暮らす借家。
- 10... 10年以上のキャリアを持つボーイさんと、ネーンさん夫妻。
- 11... ここからピックアップ車に巣箱や道具を積んで出かける。